

世界の緑 見て歩き

中日新聞事業局 社会事業部長 石原俊洋

只今、ご紹介に預かりました中日新聞の名古屋本社社会事業部にあります。まず、どんな事やっているのか、紹介させていただきますと、新聞社にはいろんな部門があります。まさしく新聞記者と言う編集部門、そして新聞を作る印刷制作部門、あと別途に例えば皆さん達、営林支局さん達との「緑のコンクール」とか、今ご協力いただいている「中日造林賞」。名前が時代めいて古いんですけど、中日造林賞と言う中部9県下の林業関係の方々を表彰する制度、こういうのを私どもの事業局、その中でも社会に対して、窓を開くと言う事業、それが私ども所管の社会事業部という所です。

主に私、社会部の記者を長い事やっておりましたので、しっかり私の役職名を聞いて下さらない人は、「社会部にもどってきたのかね」と言うぐらいなんですが、今の部に移ってやっと六ヶ月です。まゝ半年経た感じでは、社会部もこの事業部も一緒だなと思います。昨年暮れもこの方々と中日造林賞の審査の一環で、滋賀と福井県を回って来まして「体力で勝負」と分かったからです。韓国のソウルでも四年間勤め、北朝鮮との問題とか、日本との関係を取材してずっときて、仕事の分野は色々あると思う次第です。

今日は非常に高い席から、私が話をするのは僭越なんですけど、緑の関係の方々とお会いできるのは、私にとってはまことに貴重な体験だと思って、あえてやって来ました。実は、私いろんな所でお話させていただくんですが、主な肩書はこの中部地区で唯一の「コリアウォッチャー」。南北朝鮮関係の専門家と言う意味合いで、時々色々な席へ引っ張り出されて「今、北朝鮮の情勢はどうなんだ」と言う話をする事が多かったんですが、今日まったく初めて「緑」の関係の事を話します。でもちょっと聞いていただければ、ひょっとして皆さんにつながるかな、有益かなと思うのは、次のようなエピソードがあります。実は私、学生時代に別名『北アルプスの小熊さん』と言う名前をもらっておりました。今は『おじさん熊』になって今年五十になるし、頭もだいぶ薄くなってきましたから、もう北アルプスと言う名称は頭から取れるかも知れません。単なる『おっさん熊』かもしれない。けれども仕事を通じて約40ヶ国ぐらい巡って来ました。そのなかでやはり緑は大事だと思う事がツラツラありましたのでお話をさせていただきます。

まず、きっと多くの方達の体験がないだろうし、私も初めて「こんなに砂漠ってたいへんだ」と思ったのが、中央アジアのウズベキスタンという国でのことです。（黒板に地図を書いて説明）首都がタシケントです。ここから西方にサマルカンドがあります。シルクロードの街です。サマルカンドは、社会科の教科書によく出てきますが、トルコブルーと

か色々なイスラム教の寺院で有名です。非常にきれいなブルーの色彩、その色の陶器で焼いた物があってきれいな寺院が目立つ所です。実は何故ここへ行ったかと言いますと、私は韓国のソウル特派員時代に、韓国の大統領と同行でロシア、ウズベキスタンを回る仕事があったことだったんです。なかなか普通じゃ行けません。このタシケントと言う首都からサマルカンドへ大統領が行くから、実は韓国の大統領は何が起きるかわからないから、いつも同行していないとたいへんなチャンスを逃す訳なんです。昔、全斗煥大統領が東南アジアを回っていた時に、爆破事件があってあわや大統領がテロでお亡くなりなる所だったんです。九死に一生を得られて大統領は無事だったんですが、お付きの人達は何人か亡くなっている。そう言う切迫した状況もあったりするので、どうしても大統領と一緒にいたいと言う思いがありました。いつも同行するとジャンボ型の大きな飛行機に乗せてもらえたんですが、タシケントからサマルカンドと言う歴史の地への大統領搭乗機は小さい飛行機で、私は外国人記者でどうもやっぱりハバにされて乗れなかったのです。ですから自分で地元の安い車をチャーターして片道約250キロメートルを「走れ！走れ！」とオンボロ車をグングン飛ばして行って帰って来ました。

その時の体験なんです。この250キロのうちの200キロ区間が砂漠なんです。それでびっくりしたんですけども、クーラーも無いオンボロ車です。暑いから窓を開けていました。だんだん灼熱の砂漠地獄の中へ突入して行きます。そうすると熱風が「ウファー！」と入って来るんですネ、車を運転してくれた人は、英語も通じません、もう現地語で「ワァ、ワァ」喋っている。これは火傷をすると言う話だったんです。熱風をそのまま受けていると、とてもじゃないから窓を閉めてうだるような暑さの中、それでも熱風を浴びるよりはましな旅行で、行き帰り4時間ぐらい100キロ以上で飛ばしたりしました。250キロのうちの50キロ区間は、緑があったり途中にオアシスの緑があったり、約200キロぐらいは砂漠の中でした。それを死に物狂いで「走れ、走れ」で本当に緑が無い砂漠の中、気温が40度、50度、60度ぐらいになります。その中を走って行くと灼熱地獄と言うか、風をそのまま浴びれば火傷をしてしまう。これはたいへんな所だと、40何才にして初めて砂漠って大変な所だと思いました。

次に私は昔から山登りが好きでして、北アルプスで鍛えてもらって、それで3回インドとかネパールへ行ったんです。日本の北アルプスの森林限界線は2,500メートルぐらいですか、ヒマラヤへ行くと熱帯地区と重なり暖かいこともあって、4,000メートルぐらいが森林限界線です。それ以上はやはり第3の極地。氷・雪そしてどちらかと言うとカラカラの地域の所でした。行ったのはインドだと思って下さい。（黒板に地図を書いて説明）、ネパールがあってインダス、ガンジス河が流れています。最初に行ったのは、ガンジス河の源流域でした。これを登って行けば6,000メートル、7,000メートルの山々です。ラダックという地域を経ての登山もしました。エベレストに近いガウリンシャンカールという7,000メートルぐらいの山がある。ネパールと中国国境の地域に行く

と、綺麗なシャクナゲの森があります。日本で見るシャクナゲが、高さ10メートル、20メートルの木になって、それがずっとシャクナゲのトンネルになっているのです。それは確かに人が入れない所でのシャクナゲの森林ですが、ちょっと下へ降りると全部丸ボウズの裸の山、あとは4,000メートルぐらいまで段々畑にたくさんの人達が住んでいるのです。もう燃料は樹木でしかなくて、緑を守る、環境を守るなんて言うところまで頭がいかない地域だったと思います。

3つの地域に行ってみると分かったのは、この人達の平均寿命が、私が行った時は45才ぐらいでした。今は50才ぐらいに延びていると思いますが、日本の超高齢化時代、平均寿命が70何才と言われる日本と比べると、じゃこの人達は貧しいのか不幸せなのかと言ったら、私はこの人達の方が幸せそうに見えました。屈託もなくて、お金持ちという日本から来ている私達に、一生懸命彼らが持っている物を、ありとあらゆる物を協力して提供してくれる。帰りには私達もいろんな物を交換して差し上げてくるんですけど、本当に幸せとは何なのかなと考えさせられる国々です。その中でもやはりエネルギーが足りない、電気が無い、水が無いと言う事でした。確かに平均寿命が引き下がるのは、子供のうちが不衛生だからいろんな病気で死んでしまうからです。

山の帰りにカトマンズからポカラと言う、これは皆さん達も山に興味がある方々だからよく聞く町の名前だと思いますけれども、天候不順で飛行機も飛びませんので、私はポカラまで行って帰りは車でカトマンズまで来ました。ざっとこれも7~8時間の車の旅です、その途中に寄った村で、お茶というか紅茶みたいな「チャイ」と言うんですけど、ミルク紅茶、ミルクティを飲んでると村人がやって来て、「病人がいるんだ、この子をカトマンズの病院まで連れて行って欲しい、このままだと死んじゃう」と言う話がありました。お互いに言葉はわからない者同士ですけど、どうも肺炎になっている、早く手当しないといけない。その村には医者はもちろんいない。村はカトマンズまで4時間ぐらいかかるのですが、それでも一番近い病院だというような村でした。それで人道をたいへんだと思いながらお手伝いして連れて行った。今度はその病院で「どうも貧血でたくさん輸血をしてあげないとどうも良くならない、連れて来たあなたも一肌脱いで血も提供してくれないか」と言われました。「いいですよ」と言いかけて「どうやってやるんですか？」と聞くと、日本だと献血、輸血も人一人毎に針を替えますよネ、ところが使いさしの針でやろうとしているのです。こういう国はどうも肝炎がたくさんあるから気をつけなさいと言われていましたし、事前にたくさん肝炎患者も見ました。ひょっとして何回も使った注射針を私の腕へ刺してこの子を救ってあげたいけども、でも私が肝炎になってしまったら…と思って非常に考え込み、やむなく断りました。ここまで連れて来たことは協力だけでも、私もこれからの仕事があるし、肝炎になったら困ると言う事でその場は離れました。ちょっと山の話からはずれましたが、山が非常に荒れていると生活がたいへんだと言うのは、どうも一体関係があるなァと思いました。

中央アジアからインドまで来ましたので、今度は中国の話をしてしましましょうか。中国は最近大洪水がありましたネ。「中国行かれた方、何人ぐらいありますか？一人、二人、三・四人、是非お近くですから行って下さい。」中国政府も日本人観光客を、たくさんお招きしたいと言っているようです。私もそんなに行った訳じゃないんですけど、上海とかそれから私の父親・母親が昔、満洲に居たので、その親父・おふくろ達がどういう所で住んでいたのか、と言う事で、アムール川（松花江）ロシアと中国の国境のあたりをずっと行って来ました。広大です。確かに北の方はツンドラ地帯に近いロシア・シベリア地域でもあるし、南へずっと来るとまさしくチベットがありヒマラヤ国境がある所です。10億人とか言う人民が住んでいる国で何がたいへんかと言うと、上流部は燃料なんです。最近中国政府は、私も最近の事情は新聞でしか知らないんですが、21世紀の中国政府が取組む課題として、やはり森を守る、木は切らない、もう十分の一か五分の一にしようと言う政策を決めたような報道が最近ありました。やはり水害イコールその上流部の森の保全と非常に密接に続いている事を中国人民も知って、いよいよそういう動きが出てきたんだなと思います。

私の社会事業部と言う所は、中部治山治水連盟と言う組織も持っていて、私がどうも事務局長のようで、時々いろんな会議に引っ張りだされるんですが、最近うれしい話がありました。愛知県のボーイスカウト連盟が、この夏からブータンへ植樹のため行くんだそうです。東南アジア地区の水害地帯、バングラデシュとかのデルタ地帯で、あそこも私、飛行機で一回降りただけですぐ上空へ飛んだもので、実際歩いては見ないんですけど上空から見ると本当に、ドロの地域にそこに川が「グァー」と無秩序に流れている。水防対策が殆どなされていない国で、ちょっと雨が降ると大洪水です。やっぱりその原因は上流部と言う事で、今一番まだ手が遅れているのが、ブータンという国だそうです。そこへ愛知県のボーイスカウト連盟の人達が子供さん達も連れて、今年はちょっと視察・偵察、来年は本格的に木を植えに行くと言う話で、やはり国際的な視野がどんどん広がっているんだなと思って、これは中日新聞のニュースにもしたいなと思っているいい話でした。

中国から私が4年間住んだ韓国へ行きますと、「韓国で一番高い山って何千メートル級かご存知ですか？1,000メートルぐらいが最高だと思われる方どうですか、2,000メートル級が最高だと思われる方、3,000メートルは」いや皆さんは自信たっぷり、そんな質問に答える必要は無いと思ってみえるかもしれません。韓国と北朝鮮の間は微妙な線が引けてるなァと思うのは、昔も言われているんですけど北朝鮮側はやはり資源の国、水も有る、森林も有る、そしてダムもいっぱいあって日本が統治時代にいろいろ作って今の国力をアップするお手伝いもしたようです。

韓国地域は穀倉地帯、農業の地域で平坦なんです、一応この38度線を境にみると朝鮮半島にある韓国側で一番高いのは、このチリ山（黒板利用）、これが標高1,915メートルです。韓国として一番高い山は済州島にあるハルラ山と言う山です。1,950メートルで、これは火山です。まさしく日本の山々と比べると1,500メートルぐらいでは低いですから、だいたいどこへ行っても里山風景です。韓国と日本は不幸な50年前の歴史があって、日本なんかよりもどちらかと言えばアメリカに関心がありますから、日本は二の次なんです。それで近いからいつでも行けると言う事で、本当に日本を知る人は以外に少ないんです。その人達が、特に若者達が、日本をある程度偏見で見てる子達が、初めて日本へ来るとびっくりします。森が豊かですから。韓国も意外に山登りが大好きな人達の国です。ちょっとした山があって1,000メートル前後の山、それを国立公園と称して保護していますけど、それが韓国国内で約20箇所ぐらいあります。「国立公園なんか地域」とか、そこへ週末になったら出かけて行きます。だいたい日帰りでもできるような小さな国ですので、皆せっせせと登っています。日本の北アルプスを一度紹介して連れて来ると、もう病み付きと言うか虜（とりこ）になります。

韓国もかなり国力が上がってきまして海外遠征でヒマラヤへよく行くんですが、そのための訓練場所は日本です。北アルプス又は富士山、そこで意外に最近問題になっているのは山小屋の利用問題です。日本語がよくわからないので、冬の山小屋に入って来て非常用に置いてある物まで食べてしまう。それから小屋を結構荒らして行ってしまうという事で問題になっている。それほど韓国の人達が日本へ来て、山登りを楽しんでいる現状でもあるんです。

余談になったんですが、韓国も実は里山と言うのもこれも日本との戦争時代が終わって朝鮮戦争がありました。やはりエネルギー問題がたいへんでした。だから今の韓国の山は殆ど一回全部切り尽くされています。それから韓国も昔は炭を焼いていたそうです。そういうような広葉樹がいっぱいあって、それが今更新してまた次の里山を作っていますけど、1988年のソウルオリンピックから韓国も急成長しました。ソウルを流れている大きな川で、ハンガンって言う川があります。営林支局さんの横に流れている堀川も名古屋城400数十年前に作った時の人工の運河ですけども、それも名古屋の街の発展とともに大汚れました。堀川は川幅20~30メートルの小さな堀なんですけど、ハンガンは川幅1キロぐらいあります。これはソウルの市民約1,200万人の水瓶と言うか、その上流部を水源にして水道にしているのですが、最近多くのソウル市民は飲みません。「ガン」になるから飲まないと言います。先ほど言いましたように山へせっせと行くのは、一つは水取りに行くのです。近くの山へ行って山から湧いてくる自然水を取って来て家庭で飲んでいます。私も4年間居るうち1年は韓国の家庭の中でホームステイさせてもらって、一番の思い出は、その山から取ってきた水を毎日飲ませてもらった事です。それほど汚れてしまった理由には、やっぱり国土開発とともに緑を無くして建物を作ったり、高速道路を作ったり、緑との調和を忘れてしまったと言われている事も一つです。

最近聞いたんですけど、地下水は例えば10メートル地下の水が1メートル動くのに約1年だそうです。だからどんどん井戸水で取っている水も、確かにおいしいんですけど、これが今自分の足元から汲み上げた水が、1年前にはやっと1メートル先から流れてきて、ずっとたどって行ったら、何年も前に源流から流れて来たんだなァと思うと、非常に地球の歴史とともに今生きている事も大事なように思えますし、今、上流部の開発の色々、そして水とのからみを考えると水源地で雨となったり地上へ降ってきた水が、それは川へ流れてしまう部分もあるでしょうけど、地中へ浸み込んでそしてきつと私達の街へ流れてくるそういう水をしっかり考えると、なかなか簡単には飲めないし思いを深めながら味わって飲んでみる事も大事ななァと思います。

私の知り合いの名古屋大学の元教授で、特に富士山の湧水を調べているんですけども、柿田川湧水ですが、いろいろ調べるとどこからどの地点で地中に入って、流れてきたかわかるんだそうです。それを聞いたらずっと昔に地中へ浸み込んだ水らしいとか、フーと地上に湧いているこういう水が、なるほど長い年月を経た水とかと思うと、ちょっとやそつとでは飲めないなと思ったり、地球ってすごいなと思ったりする話でした。

それで話題を元に戻すと、朝鮮半島の山で一番有名なのは金剛山と言って、焼肉屋さんの名前にもなっていますネ。韓国のことわざでは、「花よりだんご」と日本のことわざに匹敵する「金剛山見るよりだんご」と言われるくらい韓国人もあこがれの景勝地の金剛山であります。これは高さ1,600メートルぐらいです。この金剛山は韓国・北朝鮮含め、この朝鮮半島で一番の景勝地と言われている針のような岩だらけの山で、この前韓国の一般の人達が、初めての観光旅行として、ここへ行きました。(黒板の地図で説明) この韓国から38度線を上へ行った所の北朝鮮、ここの最高の山って、何メートルぐらいか知ってますか、2,800メートルぐらいのペクト山と言って、中国との国境の山です。ペクト山は火山の山でここに韓国・北朝鮮の人達の故郷、日本で言う天照大神ですか、そこへ神様が降りて来てここから韓国・北朝鮮の人達の子孫が栄えたと言う所です。私もここへ行きたくてなかなか実現はしていないんですけど、ここへ行った人達の話によると北朝鮮側から上がって行くとたいへんな山だそうです、ところが中国側から行くともう麓というか中腹よりも上ぐらいまで、ドライブコースが付いていてサッと上がれるそうです。これも国力というか、観光資源にどう使ってるかという中国の姿勢が見れますし、まだその開発まで手がまわらない北朝鮮の現状を伝える典型的な例だそうです。中国側で「ペクト山も雪になるとたいへんでしょうネ」と聞いたら「いや、今スノーモービルがあって上まで連れて行ってくれる」と言う話で、中国も観光旅行に熱を入れている現状がわかります。

朝鮮半島から、もうちょっと上のロシアへ行った話もしますと、ウズベキスタンからの帰りに、韓国大統領の同行でハバロフスクへ行って、極東地域の森を少し見た時の印象なんですけど、やっぱり針葉樹林帯ですか、本当に無味乾燥と言うか、日本のような景観はありませんでした。実はうちの親父も満洲へ行ってシベリア抑留でそういう森林伐採をや

らされていたとか。親父は昭和23年に帰って来ましたから、3年間ぐらい抑留されていたんですけど、ああいう所で木を切るのはたいへんだったろうと思いました。

寒い所へきましたので、こんどはカナダとかアラスカのあたりを見た様子をお話しますと、やはり氷付けの世界でした。イエローナイフという北極圏の所なんですけど、数年前に行ってきました。何故そこへ行ったのかというと、オーロラを見たかったからです。それはバッチリ見えました。夜の空港へ着く時、米国側の南の方から飛んで来て着陸態勢に入った頃、飛行機の中からオーロラが見えました。そこには2~3日居たんですけど、緑が無い真冬の時期だから全部氷づけです。家も二重構造になっておりまして寒くない。外はマイナス20度30度ですけども、中の人達は半袖姿で仕事をしているような環境でした。昨日、一昨日名古屋でも雪が降りました、今日は富山からお越しの方達もお見えだと聞いていますが、北陸方面も雪深いんですけども、やはりどこかに緑があってホッとする風景です。氷づけの世界は一日や二日の観光旅行ならいいんですけど、大変だなァと思います。

アメリカにも行った事もありまして（黒板に地図を書いて説明）、ここはカナダ国境の五大湖と思って下さい。ユタ州、テキサス、シカゴ、デトロイト、ワシントン、ニューヨーク、フロリダ、グランドキャニオン、こういう所を回りながら印象深い景観とすればグランドキャニオンです。私どもの社会事業部が持っているところにもう一つ「森友隊」と言って森を皆で作ろうという部門がありまして、長野・岐阜県の県境の王滝村と言う所に国民の森がありまして、そこで植樹なり間伐・除伐いろいろ森のお手伝いをさせてもらっています。そこでグランドキャニオンを思いながら御岳が崩壊したというか、長野県西部大地震で濁川のあたりが「ダァー」と崩れ赤ハゲとなったかつての事を思うと、やはり荒地に大峡谷のようなものができるわけで、峡谷はきれいだけど森も無くて根っ子も無くて色んな物が流されてあのようなになったと思います。

御岳の話になりましたので、思い起こせば私も地震が起きた時に社会部の記者でしたので現場へ飛んで行きました。本当に山が荒れる恐ろしさをまざまざと体験しました。去年行った御岳の崩壊地は、災害発生当時に比べると緑も出てきましたし、すさまじい光景は私には感じられなかったです。これは皆さん達が山の手入れをされたご苦労の成果だと思います。地震後、私が一番最初、御岳の頂上がどうなってるか見に行った記者の一人でした。この当時に行くのですネ、まだ地鳴りがしていて私が一緒に連れて行った写真部の記者が、ある時余震がきて、それで余計に揺れるものですから、まだ岩がゴロゴロ落ちてくる発生直後でしたから、余りにもひどくて私より1~2才上のカメラマンが腰を抜かしてちょっと動けなくなったぐらいひどい余震がありました。土石流が谷を乗り越えてもう一つ反対側の山へ乗り上げた部分があったんですね。あれを見た時に本当に恐ろしいなァと思いました。今現場へ行って見てくるとものすごい量だし、ものすごい広い地域で、もしあんな所に人が居たら一溜りも無いなと思って、山のむごさ山を管理する大変さと言うのがヒシヒシと分かります。

営林局が営林支局となり、そして今後営林署が森林管理署と言う名前になり、組織変更があるやに聞きます。私はかつて高山支局が初任地で高山営林署の人達に乗鞍に連れて行ってもらったり、久々野営林署の人達には、熊の捕獲作戦に連れて行ってもらったり、私はいろんな勉強をさせてもらって一言で言えば楽しかったです。これは皆さん達にとってはほんの一部で、本当の大変さはそんな素人にはわからんヨと言われますけども、私は営林署の方達に山の情報を教えてもらって、他の新聞社では書けない記事をたくさん書かせてもらったつもりです。

高山時代に営林署の方達とお付き合いが出来、営林署を通じていろいろな情報源を得ました。岐阜へ転勤した時にも、岐阜営林署がありまして、時たま出入りするものですから、署の方達からいろんな情報をいただきました。山の奥というのは、意外に一帯の皆さん知りません。「へえ！そんなことがあるのかネ」と言って良いニュースになりました。私は一年前までは岐阜県内を統括する岐阜総局の次長でして、本当か知りませんが、金華山の話がありまして、林野庁としては金華山を管理するのはたいへんだと、だから岐阜市に買ってもらおうといいなと言う話があるやに聞きました。でも岐阜市側はとでもあの山を管理できないとか。もし国有林から手が離れたらどうなるか。これはやはり皆さん達が国有林として管理されたり残してきたからこそあの街に良い山が残ってると思います。岐阜市側も自分達で管理するとなると大変な手間がかかりお金もかかると言うことで、なかなか動こうとしていないやに聞いています。

今まで営林署の方達の採算制ばかりを言われてきましたがけれども、私はこれまで培ってきた皆さん達の山への取組みの仕事、それは別方面から評価すべきだと思う立場の一人です。今後森林管理署と言う名前が変わるとともに、やはりこれから広報と言うか、皆さん達がどんな事をしているんだということを一般の人達により知ってもらう努力はされるべきで、取材経験25年を重ねるなかで痛切に思います。なかなか知りにくい部分、それは皆さん達にとっても何でもない話が街の人達にとっては話題になる、意外に好台下暗して自分達は知っているけど、みんなに話すと「へえ！おもしろい」と言うところの見極めがわからない事は事実です。

どの役所でもどの組織でも、その部分の専門家でも、外から見るとニュースになったり関心と呼んだりするんですけど、そのあたりの線引ができません。じゃどうするかと言うと、やはり部外者というか自分たちの専門外の方達とお付き合いされる事、私は取材を離れてしまったんですけど、ちょっと山に関心があるような新聞なりのニュースにしたいと思えば、マスコミ関係者を上手に使うことだと思います。上手と言うのは馴合いではありません。とにかくお互いに理解し合って話し合ったり、たまには現場を見せる事だと思います。私は20何年の記者生活のうち、例えば半年間出張ばかりで過ごした事があります。それが今、中日新聞にざっと1,000人ぐらいの記者がいるんですけども、私はそのうちでも現場主義というか、ただの話を聞いただけじゃ納得いかないの、できたら現

場へ行く、できなかつたら現場を知っている人に直接話を聞きます。広報と言うのは、広報官なりがいて、上手にまとめて上手に話をするもんですから、逆に上手があまり面白くないという現象が起こります。朴訥でもいいから現場を知っている人達と話し合うと、「山って、こんなにきれいなんだヨ」とそれだけでもニュースになります。

この間、中日造林賞の審査で滋賀県へ行った時、審査される70何才のおじいさんに「どうして山に手間をかけてるんですか？」と聞くと「生きがいなんだヨ」とか「山が育つとうれしいんだ！」の返事がかえってくる。地元 of 県の報告書を見てもその記述がどこにもありません。やはり山を直に接している人から話を聞いて「あゝそうか、こうやって一つの山を守っている方達にとって生き甲斐なんだな」とそういう山ってすごいなと思いました。そういう人と人とのやりとりは、機微があるしそのためにも色々な事を知らなきゃいけない。

私が記事を書くうえで10取材したら、書くのは1つか2つなんです、それぐらいの記事がいいと私は思っています。10聞いて10書くと息切れ途切れ何とかで、ちょっと突っ込まれた時、11番目の質問をされた時に「それは知りません、わかりません」ではダメなんです。逆に言えば10書くためには100取材しなきゃいけないんです。そういう記者はどれくらいいるかと言うとなかなかいません。それはやっぱり皆さん達が、これから広報に心がけようとするれば、自分の中で何をどう探せばいい、私の中日新聞は、よそ様とのライバル関係でできるだけのことを書きたい、よその新聞社に負けたくないと努力してかき出すから、たぶんさうな中日新聞の記者はいい記者がと選んでいます。ダメな場合もあるかもしれませんが……。

本当に山を好きになっってくれる、森林管理の事に興味を持ってくれる、環境保全に興味がある記者はきまっていますので、そういう記者達と触れ合っただけで是非皆さん達が、色々改革がとられて行く中で役立って欲しいというかどうも話を聞かせるだけでもいいと思います。

全国津々浦々皆さん達の国有林がありますので、日本を旅した経験からいくと、屋久島も行って見ました。宮之浦岳の頂上までは立ててませんが、屋久スギを見てすごいなと思いましたし、昔カモシカ問題で、その時は皆さん達からすると敵だったかも知れませんが「カモシカ守れ！」と言う運動體に立っていました。カモシカの事も大事だよと言う事がわかったからなんですけど、たぶんカモシカ捕獲が3年ぐらい当初の計画より遅れたような話を聞いております。何故それができたかと言うと、「ああ言えばこう言う」と言うAの立場に対して、Bの立場が必ずあるんです。私も岐阜総局の記者時代に小坂町で特にカモシカ被害がひどいし、それと付知の山にもどんどん広がるというので、色々な食害の実態を見せてもらいました。ネズミが食べたのか、ウサギが食べたのか、カモシカが食べたのかの違いを知っている記者はたぶんどこにもいなかったと思います。私は自分の目で見ましたし、営林署の人達に現場へ連れて行ってもらって、これはこうだヨと教えてもら

いました。カモシカ食害の被害の算定、苗木が1本いくらいくらでどうなると言うのも自分でやってみました。それが本当にそうなのかどうなのかと言う部分に私自身クエスチョンがありました。それから被害だと話してる人達の気持ちも十分に取材したつもりです。でもある時、小坂町の人達からは「あなたはこの町へ入ると銃に狙われるかも知れないぞ！」「あなたはカモシカ側に立って私達の話をお書きにならないか」と言われました。被害者の林業家の人達については、地元の記者が取材してしまっていて、私はどちらかというところ、文化庁へ通って文化庁がどうやるのか、何故そういう決定をしようとしているのかという水面下の仕事をしました。カモシカの捕獲も数年延びたと思いますが、でも捕獲も実施に移ったという事で、私はやぶさかではありません。皆に考えてもらった事がよかったと思います。

そういうように日本にも色々な課題があります。地域にもさまざまな課題があります。それをどう伝えるのか、どう皆さん達が発信したいのかは、皆さん達だってお力がありますし、国を動かしてまさしく国の一体の機関ですからできると思いますけども、よりたくさんの人達を巻き込む事が、これからますます重要じゃないでしょうか。

最近聞きますと一般市民にアピールする森づくりが始まるようですネ。非常にいい事だと思います。どんどん森林を知らない人達を巻き込んでいい取組みをしていただきたいと願うばかりです。